

## 小学校1年生は「スタート」ではない

早いもので、新年度がスタートして2週間が過ぎようとしています。園でも学校でも、子どもたちは、新しい環境（場や人間関係など）にも少しずつ慣れてきているように見えます。私自身も、台場のよさを感じる場面が増えてきています。

私の教職経験において、幼稚園で仕事をするのは、初めてになります。園児と関わる中で、感じたことを率直に書いてみたいと思います。ある意味、保護者の方からすれば、「こんな当たり前のことを何であらためて」と感じるかもしれませんが。

小学校で勤務をしていると、（当たり前ですが）小学生だけを見て仕事をします。1年生が入学してくると、それ以前の園生活があることはわかっていますが、目の前の1年生の姿を見て、いろいろと指導をすることになります。「入学したばかりだから」「まだ、学校という環境に慣れていないだろうし」（児童からすると、いままでの園生活と大して変わらないのに）手取り足取り教えようとする傾向があります。児童を掌握するために、どうしても着座して過ごす時間が長くなりがちです。

先日、かもめ組さんが「好きな遊び」の時間の中で、思い思いに室内遊びをしているところを見かけました。ある園児たちがお店屋さんごっこをしていて、私を見つけるなり、「おにぎりはいかがですか？」と勧めてくれました。「一つください」と頼むと、すかさず「お持ち帰りですか？」などと声をかけてくれました。他愛のない一コマなのですが、その時の園児の、お店屋さんになりきり、夢中になって取り組んでいる一生懸命さがとても印象的でした。つまり、4歳児は4歳児なりに、5歳児は5歳児なりに、その時その時の活動で、一生懸命体験し学んでいるのです。そんな場面を、私も目の当たりにすることができました。

そんなときに、ふと考えたのは、「小学校」では、そんな園児の学びや経験が前提にあることを、実感としてもっているだろうか」ということです。1年生は、「何も知らない（できない）」からと考え、活動よりも、児童が受け身にならざるを得ない場面が多くなってはいないだろうか、果たして台場小学校はどうだろうか」ということでした。

結論を言うと、まだまだ改良すべき点はありますが、さすが幼・保と小の一体化施設ということで、昨年度から幼・保と小のスムーズな連携を目指した「架橋研」をスタートさせて、保育・授業の相互参観や協議を行っていました。もちろん、今年度も行います。まずは、5月に1年生の研究授業を予定しています。この取り組みが、子ども目線でのスムーズな接続や学びの充実につながることを期待しています。



写真は4月18日の「1年生歩行訓練」の様子